現地ルポ

村を救つた婦人たち

芦北郡津奈木村
婦人会の記録

いま村中に二つの明るい話題が波紋を描いている。一つは小津奈木部落の主人たちが早期米十二俵を農協へ持込み、主婦たちの名儀でその代金を貯金したということ。いま一つは婦人会と村の共同出資で、婦人たちの念願であつた婦人会館が出来たということ。いづれにも羨ましいニュースである。これは、津奈木婦人会のたゆまざる活動の一つの結実だということがいえるが、この樣に明るい話題を次々に生んでゆくこの村の婦人活動の実態をここに二つの面から紹介することにした。

会員八二五名。会長は斉藤たまさん。会長さんは非常に温厚でその反面、強靱な意志を感じさせる印象の人。この村の婦人活動が広い盛上りを示してきていることの一つの発端は、斉藤さんが会長に選ばれたことにあるようである。つまり、昭和二十七年ようやく婦人活動がめざめている。まづ婦人学級の開設から歩み出して部落の役員たちが自発的に動き出すようになつた。さらに公民館活動とのタイアップを意識的にもつていくようになり、婦人学級を婦人活動の誰一の基地とした計画が進められて行つた。

巾広い婦人学級活動

まづ、細かい年次計画がたてられ、婦人たちが楽しく自由に参加できるようないろいろの行事が考慮された。今まで取上げられてきた計画内容を見てみると一般的な教養科目や生活改善活動の他に工場見学、福祉施設訪問、村会見学、映画鑑賞、農村振興講演会等と巾広い文化的な行事で多く取上げられている。バックボーンになつているのは、婦人会の委員（十一名）たちで、いわば部落の婦人会への啓蒙の主導機関ともいえるもの。この委員たちと部落の婦人会幹部たちが一緒になつて講習を受け、その人たちが部落に帰つて夫々伝達講習が行われたということである。しかもこの活動は村の婦人層の立上りを最も効果的に推しすゝめた原動力ともなつている。

現在では、殆んど各部落の隅々まで婦人学級の効果が見られるようになつた。料理は毎月部落毎に生活改良普及員を保健所の協力を頼んで実習を開いている。この場合、保健所側では一般的な栄養料理、普及員の方は早期地区に適した栄養改善という風に地域性に応じた気遣いをもつて計画がたてられている。斉藤さんや、公民館主事の岡松さんにこれからの婦人学級の抱負をきいてみた。それによると新年度から、従来まで中央集権的に実施してきた活動を、さらに各部落に強く浸透させるために、部落単位に拡げて行きたいということ。そのための細かい計画が練られているそうだが、この程開設した婦人会館の高度利用によつて、より機能的な、活潑な活動が期待されている。

一〇〇〇万円の滞納

昨年、この婦人会の貯蓄組合が、納税と貯蓄活動で大蔵大臣賞を受けた。さらに、貯蓄と納税の新生活モデル地区に指定されている。これは裏返しにいえば、婦人活動への評価でもある。納税と貯蓄は表裏一体の性質のものだが、こういつた思想が着実に実践活動に移された動機がこの村の場合、はつきりとあつたようである。それについて一寸触れてみると次のようなことである。

昭和三十年度この村は一〇〇〇万円の滞納に喘いでいた。その大きな原因は、海岸地区の平国、福浦、赤崎などの部落の漁業不振にあつた。もともと、これらの漁業農家は漁族も豊富で、他の部落が羨むほどのブーム時代もあつたそうである。税徴収員が行つても、金は海に泳でいると気前のいい所を振舞つていたという話もある位である。従つて所得高に対する課税率も上つて行つたが、漁量の減退と、乱獲によつて急激に景気は下落し、一方滞納がひどく目立つてきて結局身動きならぬ処まで追いつめられてしまつた。と同時にこの地区の滞納意識が村全体に拡がつて行つた。

この村財政の危機に直面して村では新しい斉藤村長の就任とともに納税励行を強調して村民の協力を求めた。

危機を救つた婦人たち

こういう情勢の中で、いち早く滞納という村の不名誉を克服せねばと起上つたのは村の婦人たちであつた。

まづ婦人会では当時納税組合を作つて集金をしていることで注目されていた、泗水村を訪ねて、いろいろと対策を考えた。さらに津奈木村の滞納の実態を部落毎に詳細に調査した。納められるところだけは確実に納めるようにするため、婦人会の班長さんに頼んで、各戸の納税可能な期日を確かめて主婦たちが納税に積極的に協力するようになつた。この婦人会の取つた対策は目に見えて効果を上げていつた。その状況を統計的に見ると

三〇年度	七一％
三一〃	七二％
三二〃	七九％
三三〃	九六％（十一月現在）

となつて急速な実績ぶりを示していることがわかる。

いま村内では、殆んど各部落毎に納税組合ができている。

このような婦人会の納税促進という啓蒙意識が、内部的には貯蓄意識を高める方向に発展して行き、婦人会自体で、すでに八〇〇万円近くの貯金が思わぬまにできている。

貯金あれこれ

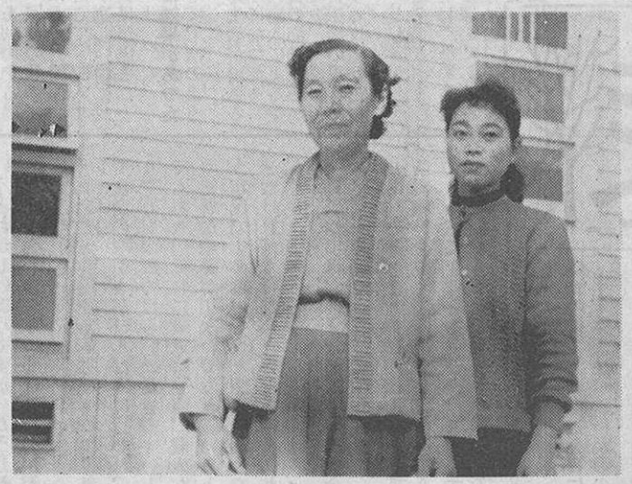
婦人会の貯蓄活動も部落によつていろいろ異つている。最も確実な、組織的なやり方として玉子貯金が人気を呼んでいる。婦人会の貯蓄組合員が月当番で毎月一日と十五日に玉子を集めてこれを売り代金は農協などへ預金されている。又、生活必需品を共同購入して、婦人たちの手でこれを販売して、利潤を預金している。こうゆう話題もある。村の上下門部落の婦人たちは、部落の篤志家から提供された伐採跡の裏木を、処理して売つたり、焼跡（てば）に菜種を共同採培し油を売つて貯金している。

貯金の使い方も合理的に

こゝで関心の持たれることは貯金の使い途であるが、この婦人会では、主に生活改善のために向けられている。台所改善、簡易水道、天日タンク、藁ぶとん、料理講習等々。対外的には、才末たすけ合い運動に協力して見舞品を贈つたり、又福祉施設を訪ねていろいろプレゼントなどをしている。

県下でも珍しい村の婦人会館ができたのもこういつた婦人会の貯蓄活動があつたからこその話で、この村の婦人たちはいまや自分たちの力を充分確めることができたというところ。今後は、婦人学級の活動を中心に、もつと広い視野の上に立つて新しい明るい村づくりのためにじつくりと足並を揃えて行きたいというのが津奈木村婦人会の明るい抱負でもあるらしい。

（広報課）



婦人活動の原動力となつている会長の斉藤さん（左）☆

熊木（長洲）←→長崎（多比良）
物資の輸送と観光旅行は
航送船有明丸で!!
—県営—
有明海自動車航送船組合
くわしいお問合せは
TEL・長洲 131・159
TEL・多比良 110・160